

TASC

Tokai university

Alumni Society of

Communication engineering

department

東海大学通信工学同窓会

(通信工学科・コミュニケーション工学科・情報通信電子工学科)

2026年 2月 1日号

発行 東海大学通信工学同窓会

会 長 小林一雄

URL <http://tasc.gr.jp>

住 所 〒259-1292 平塚市北金目4-1-1

東海大学 学長室

事務局長 村田信一 方

卒業生からの投稿記事

これまでを振り返ると

私は、昼間は東京コスモス電機株式会社(東証スタンダード)で働き、夜は東海大学第二工学部(代々木校舎、現渋谷校舎)に通学し、在学中は木村登先生から講義を通じて、しばしば夏休み中、あるいは冬休み中に発明をしたというお話も今も鮮明に記憶しています。

私は高校が機械でしたから、大学の電気通信工学は極めて困難でした。

私も在学中は100件を超える発明、考案をし、木村先生の

お話の影響が大なり小なりです。勤続約40年、前半の20年はポテンシオメータの新製品開発に従事し、後半の20年間のうち10年間超えは、T社との特許裁判を担当しました。

前半の20年間では私の考案した職務発明、考案の名称「テーパー電子部品」では、実用新案の範囲が「電子部品」ですからきわめて広く、同業他社の数社が実施しているのを発見し、警告状を、A社、M社、H社に発し、通常実施権許諾を交わし、

会長 小林一雄 (72卒)

まず初めに会員の皆様には日頃からの本会へのご協力に対し深く感謝申し上げます。

2025年度はコロナの流行以来滞っておりました活動を元のレベルに戻すという目標は実現出来てきたと考えております。

次の目標としておりました「より楽しい同窓会」につきましては本年度もホームカミングデーとコラボ致しました通信工学同窓会講演会を開催いたしました。

今回は理系教育センター教授の岡田工先生に「東海大学で自然に身につく力」水と空気の科学イベントを楽しもう」というテーマでご講演いただきました。

先生は真空ポンプなど実験道具を用意され、様々な事象を実験など交えながら分かりやすく、そして面白くお話しくださいました。

小学生くらいのお子様もいらしていて老若男女年齢を問わず楽しんでいただけたと思います。

これからもより楽しい、同窓会の原点ともいえる懇親を深められる会を目指します。

さて、ここで改めて本会の立ち位置を考えてみますと学科、継承学科が無くなって10年を過ぎ、新入会員もいないため平均年齢はどんどん高くなっております。

現在後継に名乗りを上げておられる方は1名だけで、現組織はあまりに大きすぎます。

今後本会がどのような道をたどるにしてもスリム化は必須です。急ぎその対応を進めたいと考えます。

お手伝いいただける方がおられましたら是非お申し出頂きたくお願い申し上げます。

実施料約5,000万円を得ました。

T社から、特許権侵害訴訟3億円の裁判を受けました。この事件を私が担当し、特許無効と先使用権有りで、当社の有利に裁判は進みましたが、先方の弁護士は、有名な大手法律事務所でしたから、東京地裁、高裁、最高裁と粘り、10年越えの年数を経て、特許無効がほぼ確実になる見通しの中で、当社の弁護士から和解を提案された。この事件は極めて大きく、また、珍しい事件だ。特許裁判を仕掛けて10年もの長い年月の上、特許無効になるとT社の特許の責任者は会社から責任を取られる。それは気の毒だからと和解を勧められて、和解に至りました。

東京コスモス電機(株)のポテンシオメータは絶縁基板上に抵抗体を印刷成形し、その抵抗体上を摺動子(摺動接点)が摺動する構造で、当時の課題は長摺動寿命、低摺動雑音、設定の安定性でした。この目的を達したのがワイヤーブラシ(危機族からなる極細線を10数本並列に並べ、極細線と直行してバスバーを抵抗溶接したもの)でした。

前記、T社との裁判事例はこのワイヤーブラシの製造法に関する技術です。

製品を開発するさい、他社に先がけて開発するとリスクが大きい。それゆえに二番手で開発するという考えの上司もいました。

一番手の会社の製品が極めて優れている製品の二番手の開発をするためのプロジェクトチームに参加しました。一番手はA社で、この製品には意匠権と特許・実用新案が数件含まれていることが判明し、特許担当の私の役目は一番手の工業所有権の特許請求範囲をすり抜けて開発することを設計者に誘導することでした。

設計者の方々から特許破りの開発手法と呼ばれました。設計者の方々が優秀だったもので、この開発に成功しました。その後、小型化に成功し、A社に無い製品となって、現在も生産しているという。

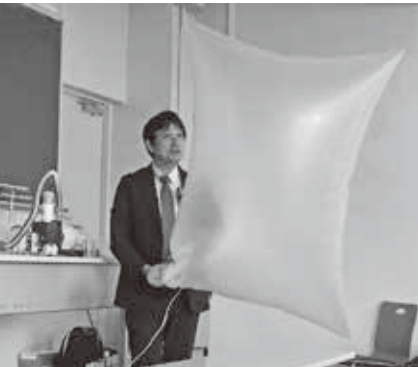
会長からのご挨拶

通信工学同窓会講演会を開催

去る11月3日湘南キャンパス6号館において、通信工学同窓会講演会を開催しました。この企画はホームカミングデーとの共催とし、広く一般の方々にもご参加いただけるよう、テーマを選びました。

今回は理系教育センター教授・学長室部長(広報担当)の岡田工先生による講演で、会員23名、一般12名の聴講がありました。講演内容は、岡田先生より、下記のとおり寄稿されました。

理系教育センターの岡田工教授は、「東海大学で自然に身につく力」水と空気の科学イベントを楽しもう」とのテーマで講演を行い、東海大学で展開されている多様な学びの機会について詳しく紹介した。望星丸による海外研修航海では、国際的視野の育成や、学部を超えた学生交流の意義を強調。また、トコチャレにおける学生の共創プロジェクトについて紹介し、学生が自らコミュニケーション力や自主性を身に付ける活動について紹介した。また、雲や真空の実験ショーを演じ、ペットボトルで雲を作ったり、真空中にマシユマロを入れたり、参加した子どもたちだけでなく大人たちも楽しんでいた。



新生ビルテクノ株式会社

オーダーメイドの「高品質サービス」で安心な未来をサポートします。

本社 東京都文京区千駄木 3-50-13

支店 横浜・大阪・名古屋・北関東・千葉・川口・仙台・福岡・新潟・小千谷・札幌

主要事業概要

設備管理
ビルへ命を吹き込む技術と人

施設運営・指定管理
公共・民間施設を安心してご利用いただくために

飲食・ラウンジ
思い通りにある至福の体験を

エンジニアリング
最先端の技術を用いたテクニカルパートナー

警備
安全・安心は99% エキスパートから

清掃
清潔から受け継がれる「快適で美しい空間を創出す」という誇り

山王総合株式会社

代表取締役社長 吉田 守

＜業務内容＞

- ・建築施工・土木施工・設備施工・設備管理
- ・環境衛生管理・保安警備・人材支援・医療機器設備
- ・システム管理・研修施設の委託運営 他

～ 心を込めた技術と安心 ～

東海大学病院支店 / 八王子支店 / 湘南支店 / 県央支店 / 大磯支店 / 横浜支店 / 埼玉支店 / 札幌支店

本社 〒259-1142 神奈川県伊勢原市田中141 TEL 0463-95-7700 FAX 0463-95-9220

www.sanno-sogo.co.jp

これまでの東海大学における取組みと 今回の学長就任について

東海大学学長 木村 英樹

2025年4月に第19代東海大学学長に就任し、今回、通信工学同窓会より寄稿の依頼があったことから、この機会に入職してからの30年間を振り返ってみたいと思います。私の父は通信工学科でお世話になった木村登名誉教授で、FM東海で母と知り合って結婚し、私が生まれたことから、もしかすると東海大学歴は60年以上に達するのかもしれませんが。父と同じ学科はお互いに気まずいということで、私は工学部電子工学科に入学しました。同様な事例としては、電気工学科の金古喜代治先生のご子息も電子工学科に入学しています。電子工学科の黒須楯生先生のご子息は通信工学科でした。このような学科間での人質？交換は、実はかなり多く行われていたのです。

半導体光センサーに関連した研究で博士論文を提出して本学大学院博士課程を修了し、1995年4月に工学部電子工学科助手として採用されました。似たようなデバイスである太陽電池はカバーできるだろうという期待から、翌96年から同じ学科の松前義昭先生（現在は総長・理事長が監督を務めていた東海大学ソーラーカーチームのメンバーに加わることとなりました。太陽エネルギーで走るソーラーカーは、当時の私にとってはとても新鮮で、興味深い



研究対象となりました。しかし、当時のチームはチャタンフレームなどの研究面でのチャレンジが先行し、順位的にはそれほど高いものではありませんでした。そこで、研究と競争力を両立するような目標設定ができればと考えました。まず、最初に着目したのが電気二重層キャパシタ（スーパーキャパシタ）でした。数百〜数千ファラッドという巨大容量コンデンサです。陸上競技部初代主将で通信工学科を卒業された日本ケミコン（アルミ電解コンデンサをはじめとする電子部品メーカー）の藤原方之氏の計らいで、1997年に世界で初めてソーラーカーに搭載しました。クルマを減速させるときに使用する回生ブレーキの電力を蓄え、再加速時に利用するという方法で、蓄電システムのエネルギー効率改善に貢献しました。このスーパーキャパシタの応用として、ホンダ・フィットやマツダ・EiOOPとしてアテンザやアクセラへの搭載があります。

また、本学の卒業生が多いことで知られる自動車部品メーカーのミツバと共同で、チェーンやギヤを省略して機械損失を削減したソーラーカー用ダイレクトドライブモーター（IIインホイールモーター）を2002年に開発しました。このモーターを搭載し、国内ソーラーカーレースで優勝するなどの実績を上げることができました。さらに、2003年には日本ケミコンの鉄系アモルファス箔積層コアをモーター電磁石コアに適用することで、鉄損を大幅に低減することにも成功しました。また、軸受けメーカーのJTEKTからは、セラミックスボールを使用した低損失ベアリングの供給を受け、これらをミツバで組み合わせることで、変換効率98.5%を達成した超高効率モーターを開発しました。

そして、2009年にはシャープのGaaS系の三接合化合物太陽電池とパナソ

ニックの大容量リチウムイオン電池を搭載し、オーストラリア大陸3千kmを走破するワールドソーラーチャレンジで、ついに生涯の目標としていた初優勝を成し遂げることでできました。このとき、三菱バジェロでパリ〜ダカールラリーで優勝した本学OBの篠塚建次郎ドライバーを招き、学生・教職員・メーカーエンジニアなどを総動員し、さらに衛星画像処理技術などをフルに活用しました。平均速度が時速100kmを越えたことから、翌2011年大会ではレギュレーションが変更になり、パナソニックのシリコン系のHIT太陽電池モジュールを搭載したソーラーカーで大会二連覇を達成し、本研究の集大成といえる成果となりました。ご協力をいただいた関係者の皆さまに感謝いたします。

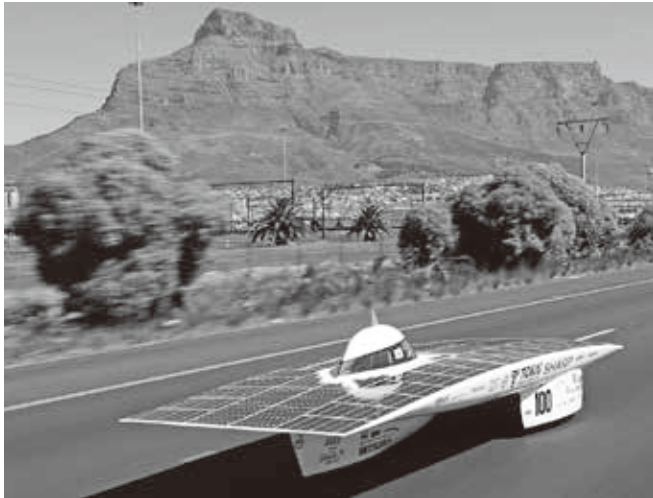
ソーラーカーと並行して、ガソリンエンジンの電気版となる小型電気自動車や燃料電池車の開発も行い、国内外の大会で優勝を繰り返すなどの結果を得ています。この電気自動車は単3乾電池16本で一人一人を乗せてフルマラソン42.195kmの距離を平均時速25km以上で走破できる性能を実現しました。

これらの活動は、研究や教育以外の効果もありました。例えば、台湾にある同名の東海大学と共同チームを結成しソーラーカー台湾大会へ、タイのモンクット王立工科大学KMUTLとともにバンコク電気自動車大会に出場するなどの国際交流も行ってきました。とくに、UAEの石油大学（現在のカリファ大学）とソーラーカーの共同開発を行ってアブダビ大会に出場し、同チームが2位となるという成果もありました。これは、日本にとって20年分の陸上石油探掘権獲得にもつながりました。

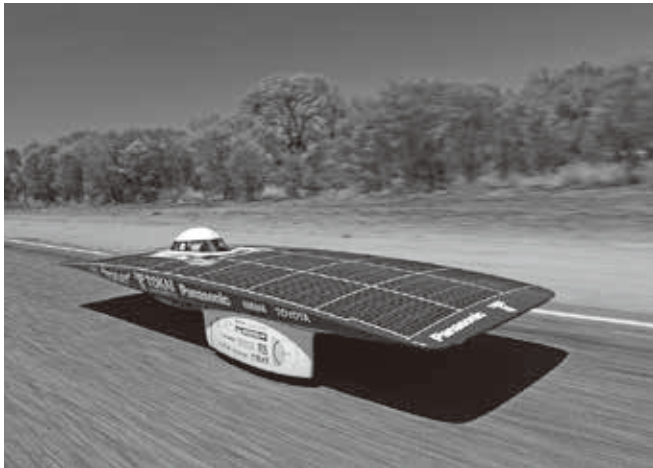
東海大学の運営では、2006年にチャレンジセンターを設置し、文部科学省現代GP採択事業として、大学による社会貢献活動USRを推進しました。地域連携のためのToCollabo推進室を設置し、大学CO事業を進めました。これらの活動で、先輩教員や事務職員とともに大学運営に関わることになり、今から振り返るところが大学管理職の道への分岐点であったと思います。その後、教学データを分析するIR室

長、全学の教養教育を担当する現代教養センター所長、情報部長、広報部長、学長補佐などを経て、学長となりました。さすがに数年前までは将来学長に選ばれるとは全く想像していなかったのですが、驚きや不安もありましたがお引き受けすることになりました。今与えられている重責に身が引き締まる思いです。

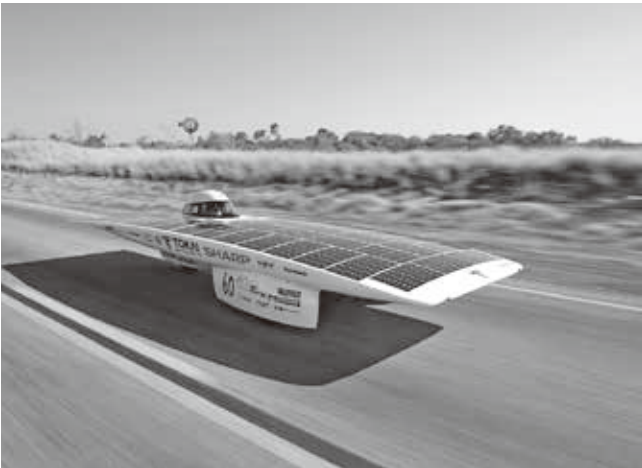
大学経営には工学分野とは全く異なる専門知識が必要とされ、教育プログラムの改革、研究力の強化、財務状況の改善、入試広報体制の見直し、教職員の人事制度など多岐にわたります。私は、大学をソーラーカーのように見立て、各種の効率改善、無駄削減を行うとともに収入の確保を行い、そこで得られた資金を教育研究などに循環させることで、全体のパフォーマンスを向上させることを考えています。実は、現時点でも東海大学のパフォーマンスは高いのです。たとえば、東京商工リサーチによる「社長数の出身大学ランキング」では東海大学は7位となつています。東洋経済による「上場企業社長数の出身大学ランキング」でも18位、イギリスのタイムズ誌による「世界大学ランキング」では教育・研究・国際性などの日本の私立大学総合で17位となっています。評価が低いのは入試偏差値と、知名度はあっても中身が知られていないといったところで、これらについては、予備校校長から直接



富士川河川敷の空撮 スカパー JSAT,JAXA,NICTで開発したソーラー無人飛行機から



2011 Tokai Challenger



2009 Tokai Challenger

ご意見を伺う場を設けたり、若い世代が使うLINE上での広報を増やしたり、というような対応を取っています。そして何よりも、面倒見が良い大学として学生に寄り添える大学でありたいと思います。

これまで、創立者の松前重義博士から続く東海大学の伝統と、諸先輩方のこれまでの活躍、現在の東海大学の資源を最大に活用することで、強くて優しい東海大学を目指していきたいと思っています。ぜひ、同窓生の皆さまからのご理解とご支援を賜れますようお願いいたします。



わが故郷の ダイヤモンドクロス

澤田 茂洋（72卒）

ダイヤモンドクロスとは、鉄道の線路が平面上で交差する構造を言います。交差点の形状がダイヤモンド型（ひし型）であるため、この名前が付けられていて、通常、直交する線路が交差する場合、進路変更ができないのが特徴です。

私の故郷は四国・愛媛県松山市です。松山市には全国的にも珍しいこのダイヤモンドクロスがあります。場所は伊予鉄道大手町駅前です。伊予鉄道の郊外電車高浜線と市内（路面）電車の線路が交差しています（写真1）。郊外電車が優先のため、郊外電車が通過中は市内電車が踏切待ちをしています



写真1：市内電車の運転席から見たダイヤモンドクロス（横断している線路が郊外電車高浜線）



写真2：郊外電車の通過を待っている市内電車



写真3：郊外電車運転席にある架線電圧切替スイッチ

（写真2）。ダイヤモンドクロスではありませんがもう一つの交差ポイントが古町駅構内にあります。

伊予鉄道では郊外電車の架線電圧が直流の750V、路面電車が600Vなのですが、このダイヤモンドクロスがあるため、郊外電車高浜線は架線電圧が600Vと

なっています。このため、郊外電車の運転席には架線電圧の切替スイッチ（横河原線郡中線750V、高浜線600V）があります（写真3）。

ご興味がおありの方、是非正岡子規の生誕地でもあります松山市へお越し下さり、ご覧いただけたらと思います！

小林さんとの思い出

早川 尚伸（92卒）

現在の通信工学同窓会会長の小林さんは、長年に渡り湘南校舎の職員として、大学の進歩・発展に大いに寄与され、まさにその人生の多くを、大学と学生の為に捧げてこられた方です。会長になられることを知った時には、その人柄から、「正に適正な人選である！」と、生意気にも自分勝手に合点をした次第です。通信工学関連学科の卒業生の皆様におかれましては、小林さんについてあまりご存じない方もいらっしゃると思うので、僭越ながら学生時代よりお付き合いのある私から、小林さんのお人柄を、当時の思い出と共に振り返ってみたいと思い、この文章を書きました。皆様には、最後までお読みいただければ幸いです。

小林さんとの出会いは、40年近く前になります。小林さんが技術課の職員として、まさに働き盛りの頃であったと思います。私は学生時代、東海みゅうじつくぶろじえくとくという、望星会に所属するサークルの一員でありました。このサークルの顧問（の先生）は、技術課の課長さんをお願い

をしており、小林さんも私の卒業後に、顧問を務めていただきました。

サークル活動の中で、学内の音響や照明の諸設備を使用したり、借用したりする時には、大学側と必ずお話をさせていたのですが、その担当部署が技術課であり、技術課の職員の皆様とは、常日頃からお話をさせていただく機会もあって、お付き合いも多かったのです。春夏のサークル合宿や追い出しコンパには、顧問の先生には必ずと言って良いほど、ご参加いただいたり、年に一度、サークルと技術課の全員参加で懇親会を開き、学生会館にあったボーリング場でプレイした後、宴席を設け、共にお酒を酌み交わしたりしておりました。

私が学生当時の小林さんは、当たり前ですが、若くハツラツとしていて、常に明るく元気一杯で、早足で学内を闊歩されるそのお姿は、今でも昨日のように思い出されます。当時の我々からすると、学校の先生というよりは、頼りになる兄貴といった感じでありました。そんな小林さんだったので、当時1号館1階にあった技術課の事務室の中では、ムードメーカー的な存在ではなかったか、と想像しております。

また、小林さんは、学生に対しても、甘え

や妥協を許さず、常に一人の大人として向き合ってくれていたように思います。なので、我々の未熟さから、ご指導を受ける場面も多く、裏表の無いその人柄で、時に優しく時に厳しく、学生指導にも熱心に当たっていただきました。

現在では、年に一回、サークルのOB会が開催されておりまして、その場にも小林さんは、毎回のように足をお運びいただき、我々サークルのOBメンバーとお話をさせていただく、貴重なお時間を頂戴しております。特に、ご自身がサークルの顧問をされていた時には、我々OBに対して、現状のサークル活動の状況をご説明いただいたり、時にはサークルの学生達を引き連れてOB会にご参加され、現役学生達と交流を持てる、良い機会をご提供いただいたりもしました。言わば、OB会と学校側のパイプ役とも言える立場で、長年大変多くのご尽力をいただいております、私より年上の大先輩達も、大変感謝をされている方でもあります。

小林さんは、もう既にご記憶にはないと察しますが、私自身、学生の時に一度だけ小林さんにお叱りを受けた思い出があります。1年生の時に私は自分のサークルを一

時離れ、建学祭の実行委員会で活動をしていました。建学祭期間中に私のサークルが技術課から借用する機材一式を、1号館1階の空き教室に集め、一時的に技術課から預かり、管理をする役目を、実行委員の私が担当していたのです。このようにすれば、建学祭期間中に、技術課職員の皆様のお手を煩わすことがないからです。4日間の建学祭も終了し、借用していた機材一式を技術課へとお返しする時にそれは起こりました。スピーカーを立てる為のアルミパイプでできた三脚のようなスピーカースタンドがあり、このスピーカースタンドにスピーカー本体を固定するネジ式のハンドル（つまみ）が付いていたのですが、移動中かどこかで緩んで外れてしまったのでしたが、よく見るとスタンドから無くなっていたのです。

もちろん、私は小林さんから指摘を受けるまで、全く知る由も無く、そもそも使っていたのは私ではなく、サークルのメンバーの誰かであったので、わかるはずもありません。その時に、小林さんを目の前にした私は、直ぐに謝罪をして、今後の対応についてご相談をすべきでありました。しかし、その時の私は、サークル仲間への怒りと、誰がやったのか、という犯人捜しのことで頭が一杯で、小林さんの存在が視界に入ってきました。そんな私の様子を直ぐに察知したのでしょうか。小林さんから、謝罪もなく無言でいる私に向けて、お叱りをいただきました。そのお言葉の一つ一つは、もう既に記憶にはないのですが、私自身の対応の悪さについて、お叱りを受けていることは、直ぐに気付きました。しかし、気付きましたしたが、時既に遅し、です。

小林さんのお話の間、自分は何もしてないのに、何故叱られなければならないのか、何故自分だけが、こんな惨めな目に合うのか、という気持ちで一杯になったことを覚えております。年を重ねた今になれば、自然と理解できることではあるのですが、その当時の自分の態度に起因した小林さんのお叱りは、ごく当たり前のことです。ただ、その当時の自分は、若く未熟であったが故に、小林さんのお言葉に理解が

及びませんでした。

小林さんから学問的な教えは受けたことではないですが、学生達の将来を考えての人間的な教えは、前述のような経験を含め、多くを学ばせていただきました。そして、そのような教えのほうが、大学を卒業し社会に出て、企業で働くようになってからは尚更、自身の為に生きていると感じております。今となつては、小林さんには、当時の自分に代わり、現在の自分から、この場をお借りして、お詫びとお礼を心より申し上げたい気持ちです。

話は変わりますが、昨今、各地の大学の運動部で違法薬物が蔓延したり、大学経営を私物化し、私腹を肥やした理事長が逮捕されたりといった、大学に関する不祥事のニュースが世間を賑わしているのは、卒業生の皆様もご承知のことであろうかと思えます。これらの事案から想像するに、最高学府（教育機関）としての人間教育が、今まさに必要とされているように考えます。学問探求や学術研究の場であるべき大学が、この様では、情けない限りではないでしょうか。願わくは、我が東海大学も、駅伝や柔道などの活躍や、今風のIT知識に偏った教育ばかりではなく、最高学府を卒業するに相応しい、人格・品格を備えた人間を一人でも多く輩出し、社会に送り出して欲しいものです。その第一歩として、松前重義先生の唱えた建学の精神（大学設立への思い）を、今一度原点に立ち返り、全ての学生・職員・教員に、徹底していただくことを、ご提案させていただきます。そして、重義先生の業績を起源に持つ、我が通信工学関連学科卒業生のこの会も、大学の運営サイド（理事会）や同窓会本部と一致協力し、21世紀の日本に誇れる、理想の大学づくりと理想の人間づくり、更に邁進すべきと考えます。

最後になりますが、小林さんには是非、現役学生や我々後輩の為に、引き続きご指導を賜りたく、今後もお元気でご活躍され、我が大学のみならず、広く教育界や社会全体へのご貢献をお願いできるのであれば、大変有難く思います。今後もお会いした際には、いろいろなお話を聞かせていただくとを、楽しみにしております。

以上

2024年度 収支決算報告ならびに監査報告

以下のとおり2024年度通信工学同窓会の収支報告をいたします。

2025年4月13日

会長 小林 一雄
会計理事 澤田 茂洋
(押印省略)

1.一般会計
〈収入の部〉

自：2024. 4. 1～至：2025. 3.31

科 目	予算 (a)	決算 (b)	執行率 (b) / (a)	〈参考〉2023年度	記事
1. TASC会員納付金	1,250,000	1,434,848	115%	1,242,228	254名
(1) 会費	1,000,000	1,197,848	120%	959,848	250名
(2) 寄付金	250,000	237,000	95%	282,380	52名
2. その他の収入	930,000	950,541	102%	180,013	
(1) 行事参加費	0	0	—	0	
(2) 会報広告掲載料	150,000	150,000	100%	150,000	
(3) 同窓会支援金	60,000	60,000	100%	30,000	
(4) その他の寄付金	0	0	—	0	
(5) ご祝儀	0	20,000	—	0	
(6) 受取利息	0	541	—	13	
(7) その他の収入	720,000	720,000	100%	0	名簿発行積立金組入
当期収入合計	2,180,000	2,385,389	109%	1,422,241	
3. 前年度繰越金	2,141,076	2,141,076	100%	2,159,864	
収入の部合計	4,321,076	4,526,465	105%	3,582,105	

〈支出の部〉

科 目	予算 (a)	決算 (b)	執行率 (b) / (a)	〈参考〉2023年度	記事
1. 運営費	252,000	185,703	74%	206,083	
(1) 通信費	30,000	10,495	35%	22,566	
(2) 会議費	60,000	58,071	97%	53,914	
(3) 交通費	30,000	14,066	47%	24,678	
(4) 旅費	0	0	—	0	
(5) 事務消耗品費	10,000	0	0%	9,246	
(6) 情報処理システム費	62,000	57,200	92%	61,600	
(7) 慶弔費	0	0	—	0	
(8) 振替払手数料	40,000	45,871	115%	34,079	(44,837+1,034)
(9) その他の費用	5,000	0	0%	0	
(10) 予備費	15,000	0	0%	0	
2. 事業・行事費	1,285,000	73,440	6%	1,234,946	
(1) 会報発行・会費徴収	1,150,000	0	0%	1,023,596	
(2) 春の講演会	35,000	30,000	86%	0	
(3) H C D運営費	100,000	43,440	43%	31,350	
(4) 支部運営支援費	0	0	—	0	
(5) その他事業・行事費	0	0	—	0	
(6) 名簿発行	0	0	—	0	
(7) 名簿発行積立金組入	0	0	—	180,000	
(8) H C D広報・講演会（再掲）	(380,000)	(0)	(0%)	(0)	
当期支出合計	1,537,000	259,143	17%	1,441,029	
3. 次年度繰越金	2,784,076	4,267,322	153%	2,141,076	
支出の部合計	4,321,076	4,526,465	105%	3,582,105	

監査報告

2024年度の東海大学通信工学同窓会の収入および支出は、関連の帳簿並びに証票の管理を含め、その執行は適切であり、貸借対照表並びに収支計算報告書はその状況を適正に表していると認められる。

令和7年5月10日

東海大学通信工学同窓会
監事 室本 惇
監事 秋山 進
(押印省略)

今年も年を越しましたが、無事に会報を発行することができました。理事会では今後の通信工学同窓会のあり方、役員や代議員のあり方など、意見交換を頻繁に行っているところです。

昨年この場をお借りして、記事の投稿をお願いしたところ、二名の会員の方から寄稿いただくことができました。感謝しております。

引き続き、会員の皆様におかれましては、遠慮することなく、記事を投稿していただきたいと思います。皆さんの身の回りに起きている、些細な事柄でも構いません。近況報告でも構いません。お気軽

編集後記

大学では新年度早々ランサム攻撃を受けました。被害が拡大しないよう、迅速かつ慎重に対応してまいりましたが、まだまだ正常に戻るには時間がかかります。会員の皆様の中には「生涯メール」をご利用だった方もいらっしゃるかと思います。セキュリティの観点から生涯メールの中止を決めました。ご不便をおかけして申し訳ございませんでした。

今後も役員一同会の運営に尽力してまいります。

引き続き、新役員を募集しています。私たちと一緒に会の運営をしてくださる方のお申し出をお待ちしています。

2025年度 本部組織紹介

参 顧 問

木村 登
名譽教授

松尾 守之
名譽教授

会 長

福田 哲夫
(61 卒)

副 会 長

山根 治仁
(62 卒)

中西 孝夫
(66 卒)

事 務 局 長

柳 真一
(72 卒)

村 信一
(86 卒)

会 計 理 事

澤 茂洋
(72 卒)

広 報 理 事

中 宏
(94 卒)

企 画 理 事

土 晴美
(88 卒)

総 務 理 事

福 雅朗
(02 卒)

室 惇
(69 卒)

監 事

秋 進
(76 卒)

研ぎ澄まされた感性と信頼の結晶が、
ビルの健康を見守ります



秀和ビルメンテナンス株式会社

本 社 ●〒103-0023 東京都中央区日本橋本町三丁目2番13号 アドバンテック日本橋ビル
TEL. 03-3516-1771 ・ FAX. 03-3516-1772 ・ <https://www.shuwa-blm.com>